

レジンプロテクテッド材の活用本格化

第1弾はウッドデッキとして納入 BPT

バイオマスパワーテクノロジーズ（BPT、三重県松阪市、北角強社長）は、杉・桧B・D材やナラ枯れ材などの広葉樹を使用する新たな取り組みとして、RP（レジンプロテクテッド）加工材の活用を本格化した。

RP加工は、木材に樹脂（レジン）を含浸させて対候性や強度などを高める技術。BPTの林業イノベーション事業部では、低質材の高付加価値化を図るためRP加工に注目し、同技術の先進企業

であるe2m（神奈川県藤沢市、片岡輝芳社長）と共同で販路拡大と経営の多角化を目指している。

RP加工材の活用は、皮切りとして、さきごろBPTは地元的所有林から産出した杉材に



RP加工材を活用したウッドデッキ

RP加工を施し、藤沢市内の一般住宅へウッドデッキ（36平方メートル）として納入した。自然素材を生かしながらも耐久性に優れ、木目の意匠により温かみのある仕上がりとなっ

た。

RP加工材は一般材より強度に優れるため、BPTではフローリングや机・いすといった用途に期待している。また、内装材や建築部材などの展開も視野に入れており、多種多様なニーズに応えられる製品開発を進めている。